

である。「パート」指向は 13.5%、「正社員指向」は 8.2%である(図 1 参照)。子供が生まれれば 0～2歳の段階では働かないという女性の結婚退職確率は(夫の)年収 500～800万円 で 41.1%～45.3%である。パート指向は 12.7%～14.8%、正社員指向は 7.6%～9.3%であり、その格差は明瞭である。女性の「育児と働き方」に関する選好が女性の就業選択に大きく影響していることがわかる。同時に夫の年収が 500万円から 800万円に増加したとしても、無職選択確率の増加は各々 4.2%ポイント、2.1%ポイント、1.5%ポイントにとどまる。夫の所得が増加すれば妻の就業確率は低下するという有沢・ダグラスの法則の効果は、女性の選好の影響に比べればかなり限定的な効果しか持たないことがわかる。

==== 図 1 子どもがない場合の女性の考え方別、無職選択確率 ====

(子どもがない場合の就業選択確率)

正社員、専門職・自営業、パートの選択確率を図 2～図 4 に示す(以下の説明では主に正社員選択確率を中心に上げる)。夫の年収 500万円 で「働かない」指向では 10.4%、「パート」指向で 21.6%、「正社員」指向では 64.3%である。ここでも女性の選好の影響の強さは明らかで、「働かない」と「正社員」とでは 54.1%ポイントの差がある。夫の年収が 500万円から 800万円に増加したとしても、正社員選択確率の減少は各 1.3%ポイント、1.8%ポイント、2.6%ポイントにとどまる。夫の年収の効果は正社員・フルタイム選択に関してもかなり限定的である。

==== 図 2 子どもがない場合の女性の考え方別、正社員選択確率 ====

==== 図 3 子どもがない場合の女性の考え方別、専門職選択確率 ====

==== 図 4 子どもがない場合の女性の考え方別、パート選択確率 ====

(乳幼児が 1人いる場合の無職選択確率)

最初の子どもができることで、女性の就業(無職)確率が激減(激増)することが指摘されている(松浦・白波瀬[2002]参照)。「働かない」指向女性の無職選択確率は 83.4%、「パート」指向女性では 50.9%、「正社員」指向女性では 35.5%であ

る(夫の年収 500 万円、図 5 参照)。子どもがいない場合に比べて 41.3%ポイント、38.2%ポイント、27.9%ポイント各々増加している。最初の出産・育児で女性が離職する傾向と整合的である。正社員指向女性でも無職選択確率が 35%に上るのは、無職選択の理由として、就業と家事・育児両立が困難や家族・職場の支援無しを上げる人が多かったこと(表 4)と整合的である(滋野・松浦[2003]も参照)。約 85%の女性が子どもが 0～2 歳の段階で働かないという選好を見せていることを考えれば、結婚、ついで第一子出産・育児で女性の無職(就業)選択確率が急増(急減)する事実を改めて裏付けている。

夫の収入の効果はここでも限定的であり、「正社員」指向女性の無職選択確率を 500 万円の水準から 40.6%(800 万円)に 5.1%ポイント増加させるにとどまる。第一子出産という家族形成の影響に比べればかなり少ない。

==== 図 5 乳幼児が 1 人いる場合の女性の考え方別、無職選択確率 ====

(乳幼児が 1 人いる場合の就業選択確率)

正社員選択確率は「正社員」指向女性で 46.7%であり、子どもがいない場合に比べて 17.9%ポイント減少する(夫の年収 500 万円、図 6 参照)。夫の年収 800 万円では 42.1%(子どもがいない場合に比べて 20.7 ポイント減)である。育児に足りるであろう夫の年収 300 万円増加の効果よりも、子供を持つことということが女性のライフコースに対する影響の強さがうかがわれる。

パート選択確率は「パート」指向の女性で 33.6%、「正社員」指向で 11.6%、「働かない」指向で 12.7%である。パート指向女性の確率が相対的に高いのは自然である。注目されるのは、正社員指向女性の選択確率が、働かない指向女性の確率とほとんど差がないことである(図 7 参照)。「正社員指向」の女性は正社員・フルタイムで働くことが困難な場合、パートや自宅での就業にとどまるよりも一挙に無職になることを示唆している。言い換えれば「能力・適性」を生かし切れるポジションを得られなければ、労働市場から退出する姿を示しているといえよう。なお夫の年収の影響はほとんどない。

==== 図 6 乳幼児が 1 人いる場合の女性の考え方別、正社員選択確率 ====

==== 図 7 乳幼児が 1 人いる場合の女性の考え方別、専門職選択確率====
==== 図 8 乳幼児が 1 人いる場合の女性の考え方別、パート選択確率====

(就学前児童がいる場合)

この段階では約 40%の女性が「パート・自宅で働く」ことを選好していた。無職選択確率は、「働かない」指向女性で 67.6%～ 71.2%(夫の年収 500 万円～ 800 万円)、「パート」指向女性で 30.8%～ 34.6%(同)、「正社員」指向女性で 22.3%～ 26.0%(同)である(図 9 参照)。乳幼児がいる場合に比べて各々 15.8%ポイント～ 14.5%ポイント、20.1%ポイント～ 20.9%ポイント、13.2%～ 15.6%ポイント減少している。この子どもが 3 歳以上(乳幼児はいない)という育児段階で女性の M 字型労働力率が反転上昇することを裏付けている。

「正社員」指向女性の正社員選択確率は 37.9%～ 34.8%(夫の年収 500 万円～ 800 万円)であり、乳幼児有りのケースに比べて 9.0%ポイント～ 7.2%ポイント低下する。出産段階は乗り越えたとしても、育児段階で就業との両立が困難になっていることがうかがわれる(図 10 参照)。

==== 図 9 就学前児童が 1 人いる場合の女性の考え方別、無職選択確率====
==== 図 10 就学前児童が 1 人いる場合の女性の考え方別、正社員選択確率====
==== 図 11 就学前児童が 1 人いる場合の女性の考え方別、専門職選択確率====
==== 図 12 就学前児童が 1 人いる場合の女性の考え方別、パート選択確率====

(乳幼児、就学前児童が共にいる場合)

二人以上の子どもを出産する場合、出産間隔を考えれば乳幼児と就学前児童が共にいるというのはもっともらしいケースといえよう。女性にとり家事・育児負担が最も重い時期である。無職選択確率は高くなっているであろう。「働かない」指向女性の無職選択確率は 95%前後、「パート」指向女性で 75%～ 80%、「正社員」指向女性でも 66.3%～ 70.7%(夫の年収 500 万円～ 800 万円)である。二人以上の子どもを出産する場合、正規就業を希望したとしても著しく困難な実情を裏付けている(図 13 参照)。実際正社員選択確率は「正社員」指向女性でさえ 17.4%～ 14.6%に止まる(図 14 参照)。「パート」指向のパート選択確率でも

17.3%～ 15.4%である(図 15 参照)。いかに就業と出産・育児の両立が難しいかを示唆している。同時に女性の両立指向、就業継続指向が増加する中で、この数字は少子化の背景の一つを表しているといえよう。

＝図 13 乳幼児・就学前児童が共にいる場合の女性の考え方別、無職選択確率

＝図 14 乳幼児・就学前児童が共にいる場合の女性の考え方別、正社員選択確率

＝図 15 乳幼児・就学前児童が共にいる場合の女性の考え方別、専門職選択確率

＝図 16 乳幼児・就学前児童が共にいる場合の女性の考え方別、パート選択確率

(正社員指向女性の育児段階別正社員選択確率)

両立、就業継続の選好が最も強いと考えられる正社員指向女性の正社員選択確率が育児によりどのような影響を受けているかをみる(図 17 参照)。子どもがいない段階では 64.5%～ 61.9%(夫の年収 500 万円～ 800 万円)である。乳幼児がいる段階では 46.7%～ 42.1%(同)と 50%を割り込み、(第一子出産により) 18.9%ポイントから 19.9%ポイント低下する。第一子の育児を行っている就学前児童がいる段階では 37.9%～ 34.8%(同)にまで低下する。これは子ども出産数を 1 人にとどめた場合と近似することができるであろう。子供を産まないケースに比べて 26.6%ポイントから 27.1%ポイント低下する。

第二子を出産したケースに該当する乳幼児・就業前児童がともにいる場合の正社員選択確率が 17.4%～ 14.6%になることは前述した。就学前児童がいるケースに比べて 21.5%ポイントから 20.2%ポイント減少する。この減少幅を第二子出産のコストと考えるならば、本稿が分析対象とした東京 30km 圏という大都市中心部では第二子出産は事実上正規就業断念に近いコストを女性にもたらしすことを我々の試算は示している。これが東京都の女性の初婚年齢が 30.08 歳、生涯未婚率 10.97%、合計特殊出生率 1.07 という晩婚化、未婚化、少子化の背景にあると考えることは、あながち間違いとはいえないであろう。

＝図 17 正社員指向女性の育児段階別正社員選択確率＝＝＝＝

5 賃金・年収関数の推計結果

(非正規雇用、正規雇用の賃金関数)

非正規雇用労働の時間当たり賃金関数の推計結果をみると(表 16 参照)、勤続年数(経験)の係数の符号は正であるが統計的に有意ではない。言い換えれば非正規雇用労働では勤続年数・経験は労働条件(賃金)に評価されていない。ただし人的資本の代理変数として取り上げた教育年数にかかる係数は 1%水準で有意に正である。非正規雇用労働市場では高学歴女性の方が相対的に有利な職に就いていることがうかがわれる。その限界性向は係数*時間当たり賃金で計算されるので、時給 700 円の水準で 62.0 円(高卒→短大、短大→大卒)、1,000 円の水準で 88.6 円、1,100 円では 97.5 円である。家族従事者・内職ダミーの係数が 1%水準で有意に負というのは予想と合致する。家族従事者・内職の時間当たり賃金は他のケースに比べて 50.3%低い水準となっており、分布でみた低賃金層の存在と整合的である¹⁰⁾。

正規雇用労働者についてみると、勤続年数は 1%水準で有意に正であり、符号条件を満たしている。しかし教育年数は符号は正であるものの統計的には全く有意ではない。正規雇用で教育歴が評価されないというのは、いささか不自然である。一律に年間 48 週就業しているという仮定が強いのかもしれない¹¹⁾¹²⁾。

====表 16 賃金・年収関数の結果====

(正規雇用労働、専門職・自営業の年収関数)

正規雇用労働者の年収関数では、勤続年数は 1%水準で教育年数は 10%水準で各々有意に正であり、予想と合致している。正社員では年収ベースでも、経験が労働条件の向上につながっている。限界効果は年収 300 万円の水準で 11.5 万円、400 万円では 15.4 万円、500 万円では 19.2 万円である(図 18 参照)。弾性値は勤続 3 年で 0.115、4 年で 0.154、5 年で 0.192 である。教育の限界効果は年収 300 万円の水準で 13.0 万円(高卒→短大、短大→大卒)、400 万円では 17.3 万円、500 万円では 21.6 万円である。大井・松浦[2003]は、結婚・出産を退職事由とした正規雇用の女性が、再び官公庁や民間企業で正社員のポストを得る確率はほぼ 0.0%であることを報告していた。今回の結果とあわせると、高学歴女性ほど就

業中断のダメージは大きいことが裏付けられる。

公務員の年収は 28.6%他のケースより高くなっている。サンプル数の少なさに留意する必要があるが、少なくとも建前としては男女平等が図られている公務員女性の年収水準が 28.6%他のケースより高いということは、日本の民間労働市場における男女間格差の大きさを示唆しているといえよう¹³⁾。

==== 図 18 勤続年数の限界効果 =====

正規雇用労働者との比較の意味でも専門職・自営業を取り上げてみる。この世界では資格(専門職)が重要な意味を持つであろう。経験は熟練・ノウハウの蓄積だけではなく顧客基盤の拡大や維持にもつながるであろう。教育歴の効果は資格に吸収されている可能性がある。結果を見ると、勤続年数(経験年数)と専門職ダミーの係数は 1%水準で有意に正である。教育年数の係数は符号は正であるが、統計的には全く有意でない。この結果は以上の推論を裏付ける。経験年数の限界効果は年収 300 万円の水準で 10.5 万円、400 万円で 14.0 万円、500 万円で 17.5 万円、600 万円で 21.0 万円である。弾性値は経験 5 年で 17.5%である。専門職はその推計値から自営業の年収を 84.0%上回っていることが分かる。資格の持つ経済的効果の大きさを裏付けている¹⁴⁾。

5 おわりに

東京大都市圏という未婚化、晩婚化、少子化が最も進んでいる地域での女性の就業形態選択を規定する要因と非正規雇用労働者・正規雇用労働者の経済格差の原因を分析した。

①「出産・育児と母親の働き方に関する女性の考え方」は、女性の就業形態選択に大きく影響する。

②第一子出産で就業確率は大きく低下し、正社員指向女性に取り第二子出産は事実上正社員選択を断念させるに近い影響を持つ。

③乳幼児段階での育児負担が、ほとんど母親に依存することがその背景にある。そのことが未婚化、晩婚化、少子化につながっている可能性がある。

④非正規雇用形態では経験(勤続年数)は評価されていない。これが格差の一因である。

ということを明らかにした。そこでは就業と出産・育児の両立がなお困難であり、女性の選択を阻害していることを繰り返してみてきた。女性に取り、一度正規就業を離れたら経験や熟練を評価されない世界しかないということは、リターン・マッチの機会がないということである。女性の選好が「自分の能力・適性を生かす」方向へと変わる中で、リターン・マッチの無い社会が続くならば、未婚化、晩婚化、少子化は更に進行し、わが国社会に深刻な課題をもたらすであろう。

1) (株)インテージの登録モニター(20～60歳の女性)の家計について、対象市区町村の国勢調査の世帯比率で抽出した1,700人に郵送し、1,455人から回答を得た。詳細については松浦[2003]参照。

2) 1都3圏を対象とした内閣府「情報化と雇用機会等に関するアンケート」[2002]によっている。なお杉並区・江東区、富山・高岡を対象に調査した日本労働研究機構「育児休業制度の定着には、職場・地域等の支援システムの構築が必要」[2002]も同様の報告をしている。

3) 小学生であるから日中は学校にいる。

4) 1999年に実施された総理府「少子化に関する世論調査」によれば、3歳ぐらいまでの日中は「どこ」で子育てするのがよいかという質問に対し、3歳未満の幼児がいる女性の70.9%が「主に家庭(自宅)」、20.9%が「家庭の状況に応じてどこでもよい」、6.1%が「主に保育所」、2.0%が「祖父母やきょうだいなど」を上げている。これは我々の結果と共通する。

5) 国立社会保障・人口問題研究所の「第11回出生動向基本調査－独身青年層の結婚観と子供観」によれば未婚女性の理想とするライフコースは、非婚就業3.7%(1987年)→4.4%(1997年)、DINKS2.5%→4.4%、両立18.5%→27.2%、再就職31.1%→34.3%、専業主婦33.6%→20.6%、その他・不詳10.7%→9.2%である。未婚層で子供を産まない選択と結婚し子供を持つが仕事も一生続けるという選好が強くなっている。他方専業主婦指向は減少している。また内閣府の「男女共同参画

に関する世論調査」等によれば、「子供ができてみずっと職業を続ける方がよい」と回答する比率は男女とも年々増加している(女性 1984年 20.1%→2002年 38.0%、男性 15.7%→37.2%)。学卒後は正規就業が一般的なわが国の実情からすれば、この職業は正規就業を指す(両立)と考えられる。しかし以上の調査は観察される事実と相容れない(滋野[2003b]、樋口他[1997]参照)。このギャップが未婚率の上昇や晩婚化、少子化につながっている可能性は十分に考えられる。

6) Gustafsson and Wetzeles[2000]は出産による就業中断(stays out of paid work)による放棄所得と on-the-job investment による人的資本の蓄積が減少することが、出産のタイミングに影響することを示している。ただそこでは人的資本は減耗しないことが仮定されているが、わが国での正規就業から非正規就業への移行は、事実上人的資本の減耗が大きいことを示唆している。

7) 15時間未満、15～21時間、22～34時間、35～42時間、43～45時間、46～48時間、49～54時間、55～59時間、60～64時間、65時間以上のランクで質問されている。

8) このサンプルは最低賃金法が実効性を持たないであろう家族従事者・内職を含むことに留意されたい。なお2002年10月の最低賃金時間額は678円(埼玉)、677円(千葉)、708円(東京)、706円(神奈川)である。

9) 女性の結婚。出産、就業については樋口[2000]参照。

10) $\exp(-0.6985) - 1.0$ で求められる。

11) 正規雇用労働者(正社員)が労働時間を選べるのかという問題がそもそもあるだろう。欧米に比べた日本での年休取得率の低さ、あるいは超勤拒否が実際上困難であることを考えれば、正規雇用労働者に時間当たり賃金という概念が妥当な指標かどうかは、根本的な検討に値する。

12) 実数値を階級値(中間値)に替えて推計し、どのようなバイアスが生じるかを検討することは興味深い課題である。今後取り組みたい。

13) 企業規模を加えた推計も試みたが統計的に有意な結果は得られなかった。

14) 1990年代以降、大学に在籍しながら資格取得を目指し専門学校に通学するいわゆるダブル・スクールや大卒・短大卒後専門学校に進学するケースが目立つようになった。出産退職確率の高さとあわせ考えると、一部の女性は資格取得→専門職のコースを指向しているとみられるが、その経済的根拠はここにあるといえよう。

<参考文献>

- 大井方子・松浦克己[2003]「女性の就業形態の選択に影響するものとししないもの」会計検査研究 27号
- 大沢真知子[2002]「非正規労働者の増加がもたらす労働市場の二極分化」宮島洋+連合総研編著『日本の所得分配と格差』第5章所収,pp.119-152
- 滋野由紀子[2003a]「結婚・出産と女性の企業定着」『雇用と失業に関する調査研究報告書』雇用・能力開発機構/関西経済研究センター。
- 滋野由紀子[2003b]「結婚・出産と女性の就業継続の日米比較」 mimeo
- 樋口美雄・阿部正浩・J. Waldfogel[1997]「日米英における育児休業・出産休業制度と女性就業」『人口問題研究』第53-4号, pp. 49-66
- 樋口美雄[2000]「パネルデータによる女性の結婚・出産・就業の動学分析」岡田章他編『現代経済学の潮流 2000』第4章所収、東洋経済新報社、pp.109-148。
- 松浦克己[1993]「世帯主の定期外収入・同居世帯員収入の所得分配に与える影響」日本労働研究雑誌 No407,pp.10-17
- 松浦克己[2003]「「女性の働き方と子育てや家庭の暮らしに関するアンケート」の内容について」 mimeo。
- 松浦克己・滋野由紀子[1996]『女性の就業と富の分配』日本評論社。
- 松浦克己・滋野由紀子[2002]『女性の選択と家計貯蓄』日本評論社。
- 松浦克己・滋野由紀子[2003]「出産・育児と就業の両立を目指して」季刊社会保障近刊
- 松浦克己・白波瀬佐和子[2002a]「既婚女性の就業決定—これからの社会保障政策に向けて」季刊社会保証研究 38 卷 3 号 pp188-198
- 松浦克己・白波瀬佐和子[2002b]「女性の就業と分配、社会保障政策の関係—出産・育児を中心として」平成 13 年度厚生科学研究報告「日本の所得格差の現状と評価に関する研究」 pp1-36
- Greene, W[2003] *Econometric Analysis*, Prntice Hall
- Gustafsson,S.,and Wetzels[2000], "Optimal Age for First Birth: germany, Great Britain, the Netherlands and sweden," in Gustafsson,S., and D. Meulders (eds) *Gender and The Labour Market*, MacMillan Press Ltd, London
- Heckman, J. [1979], "Sample Selection Bias as a Specification Error," *Econometrica* 47, pp.153-161.
- Lee, L[1983], "Generalized Econometric Models with Selectivity," *Econometrica*, 51,pp.507-512
- Lee, L., Maddala,G.S and Trost,R.P[1980], "Asymptotic Covariance Matrices of Two Stage Probit and Two Stage Tobit Methods for Simultaneous Models with Selectivity," *Econometrica*, 48,pp.491-504
- Matsuura and Shigeno[2003], "The Effect on Paid Parental Leave on Fertility in Japan," mimeo.
- Murphy,K and R.Trost[1985], "Estimation and Inference in Two Step Econometric Models," *Journal of Business and Economic Statistics*,3 pp.370-379

表1 育児と母親の就業に関する考え方

	0~2歳		3~6歳		7~9歳	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
①働かない	948	85.25%	602	53.70%	285	25.07%
②パート・自宅	106	9.53%	442	39.43%	696	61.21%
③正社員	58	5.22%	77	6.87%	158	13.90%
小計	1112		1121		1137	
NA	43		34		18	

表2 主に育児に当たった人、施設サービス

0~2歳	第一子		第二子		第三子	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
母親	872	84.82%	691	84.58%	180	84.51%
父親	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
祖父母など	27	2.63%	18	2.20%	6	2.82%
幼稚園	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
幼児教室	4	0.39%	3	0.37%	1	0.47%
公立認可保育園	44	4.28%	40	4.90%	11	5.16%
私立認可保育園	18	1.75%	18	2.20%	3	1.41%
保育室	11	1.07%	5	0.61%	2	0.94%
ベビーホテル	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
保育ママ	6	0.58%	6	0.73%	3	1.41%
ベビーシッター	0	0.00%	1	0.12%	0	0.00%
学童保育	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
塾稽古事	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
知人	0	0.00%	1	0.12%	0	0.00%
その他	4	0.39%	0	0.00%	1	0.47%
N		1028		817		213
3歳~入学まで						
母親	81	8.39%	66	8.17%	18	8.49%
父親	1	0.10%	1	0.12%	0	0.00%
祖父母など	8	0.83%	3	0.37%	2	0.94%
幼稚園	657	68.08%	501	62.00%	118	55.66%
幼児教室	7	0.73%	6	0.74%	1	0.47%
公立認可保育園	109	11.30%	72	8.91%	25	11.79%
私立認可保育園	54	5.60%	42	5.20%	11	5.19%
保育室	7	0.73%	4	0.50%	3	1.42%
ベビーホテル	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
保育ママ	0	0.00%	1	0.12%	0	0.00%
ベビーシッター	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
学童保育	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
塾稽古事	1	0.10%	0	0.00%	0	0.00%
知人	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
その他	4	0.41%	0	0.00%	2	0.94%
N		965		808		212
7~9歳夕方						
母親	476	58.98%	355	50.50%	96	48.24%
父親	2	0.25%	1	0.14%	0	0.00%
祖父母など	27	3.35%	27	3.84%	10	5.03%
幼稚園	0	0.00%	1	0.14%	0	0.00%
幼児教室	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
公立認可保育園	2	0.25%	0	0.00%	0	0.00%
私立認可保育園	3	0.37%	2	0.28%	0	0.00%
保育室	1	0.12%	1	0.14%	0	0.00%
ベビーホテル	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
保育ママ	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
ベビーシッター	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%
学童保育	69	8.55%	45	6.40%	15	7.54%
塾稽古事	142	17.60%	102	14.51%	22	11.06%
知人	13	1.61%	9	1.28%	1	0.50%
その他	36	4.46%	35	4.98%	5	2.51%
N		807		703		199

表3 育児と母親の就業に関する考え方と実際の選択
0～2歳

実際	考え方			第二子			第三子									
	第一子	②	③	①	②	③	①	②	③							
①働かない	754	91.39%	35	38.46%	580	86.70%	15	25.86%	10	34.48%	148	85.55%	5	27.78%	2	20.00%
②パート自宅	38	4.61%	46	50.55%	66	9.87%	35	60.34%	2	6.90%	17	9.83%	11	61.11%	1	10.00%
③正社員	33	4.00%	10	10.99%	23	3.44%	8	13.79%	17	58.62%	8	4.62%	2	11.11%	7	70.00%
小計	825		91		669		58		29		173		18		10	
NA	24		3		22		3		1		5		0		0	

3歳～6歳

考え方

実際	考え方			第二子			第三子									
	第一子	②	③	①	②	③	①	②	③							
①働かない	462	90.59%	145	42.65%	338	84.50%	82	33.06%	7	18.92%	75	81.52%	16	21.92%	2	16.67%
②パート自宅	32	6.27%	177	52.06%	51	12.75%	150	60.48%	7	18.92%	12	13.04%	51	69.86%	2	16.67%
③正社員	16	3.14%	18	5.29%	11	2.75%	16	6.45%	23	62.16%	5	5.43%	6	8.22%	8	66.67%
小計	510		340		400		248		37		92		73		12	
NA	23		11		54		39		5		18		13		1	

7～9歳

考え方

実際	考え方			第二子			第三子									
	第一子	②	③	①	②	③	①	②	③							
①働かない	196	90.74%	303	66.30%	168	27.57%	225	57.11%	21	26.58%	34	82.93%	51	46.36%	9	34.62%
②パート自宅	14	6.48%	136	29.76%	13	5.95%	154	39.09%	30	37.97%	4	9.76%	53	48.18%	7	26.92%
③正社員	6	2.78%	18	3.94%	4	2.16.22%	15	3.81%	28	35.44%	3	7.32%	6	5.45%	10	38.46%
小計	216		457		185		394		79		41		110		26	
NA	16		16		13		18		2		3		15		1	

表5 正規労働者週あたり労働時間分布

時間数	人数	%	累計人員	累計%
8	3	2.44	3	2.44
10	1	0.81	4	3.25
20	2	1.63	6	4.88
25	1	0.81	7	5.69
30	7	5.69	14	11.38
33	1	0.81	15	12.20
35	5	4.07	20	16.26
36	2	1.63	22	17.89
37	1	0.81	23	18.70
38	7	5.69	30	24.39
39	1	0.81	31	25.20
40	36	29.27	67	54.47
41	2	1.63	69	56.10
42	6	4.88	75	60.98
43	1	0.81	76	61.79
44	5	4.07	81	65.85
45	16	13.01	97	78.86
46	1	0.81	98	79.67
48	5	4.07	103	83.74
50	8	6.50	111	90.24
54	2	1.63	113	91.87
55	2	1.63	115	93.50
60	4	3.25	119	96.75
63	1	0.81	120	97.56
68	1	0.81	121	98.37
100	1	0.81	122	99.19
113	1	0.81	123	100.00
計	123	100.00	123	100.00

平均42.08 メディアン40 標準偏差12.73

表6 パート就業日労働時間

時間	人員	比率%	累計人員	累計%
1	2	0.60	2	0.60
2	8	2.41	10	3.01
3	25	7.53	35	10.54
4	71	21.39	106	31.93
5	74	22.29	180	54.22
6	64	19.28	244	73.49
7	44	13.25	288	86.75
8	35	10.54	323	97.29
9	5	1.51	328	98.80
10	2	0.60	330	99.40
15	2	0.60	332	100.00
計	332	100.00	332	100.00

平均5.46 メディアン5 標準偏差1.81

表7パートタイム月間就業日数					
日数	人員	比率%	累計人員	累計%	
1	1	0.29	1	0.29	
3	3	0.87	4	1.16	
4	6	1.74	10	2.90	
5	6	1.74	16	4.64	
6	3	0.87	19	5.51	
7	3	0.87	22	6.38	
8	13	3.77	35	10.14	
9	2	0.58	37	10.72	
10	19	5.51	56	16.23	
11	4	1.16	60	17.39	
12	29	8.41	89	25.80	
13	15	4.35	104	30.14	
14	3	0.87	107	31.01	
15	32	9.28	139	40.29	
16	29	8.41	168	48.70	
17	7	2.03	175	50.72	
18	15	4.35	190	55.07	
19	4	1.16	194	56.23	
20	87	25.22	281	81.45	
21	13	3.77	294	85.22	
22	23	6.67	317	91.88	
23	7	2.03	324	93.91	
24	6	1.74	330	95.65	
25	11	3.19	341	98.84	
26	3	0.87	344	99.71	
28	1	0.29	345	100.00	
Total	345	100.00	345	100.00	
平均	16.40	メディアン	17	標準偏差	5.36

表8 非正規労働者年間就業時間分布

時間数	人員	比率%	累積人員	累積%
[100, 105)	1	0.32	1	0.32
[120, 125)	1	0.32	2	0.65
[140, 145)	1	0.32	3	0.97
[170, 175)	1	0.32	4	1.30
[175, 180)	1	0.32	5	1.62
[190, 195)	1	0.32	6	1.95
[200, 205)	1	0.32	7	2.27
[240, 245)	2	0.65	9	2.92
[280, 285)	2	0.65	11	3.57
[300, 305)	2	0.65	13	4.22
[320, 325)	1	0.32	14	4.55
[335, 340)	1	0.32	15	4.87
[340, 345)	1	0.32	16	5.19
[380, 385)	2	0.65	18	5.84
[400, 405)	6	1.95	24	7.79
[420, 425)	2	0.65	26	8.44
[430, 435)	2	0.65	28	9.09
[440, 445)	1	0.32	29	9.42
[480, 485)	9	2.92	38	12.34
[490, 495)	1	0.32	39	12.66
[500, 505)	3	0.97	42	13.64
[520, 525)	1	0.32	43	13.96
[525, 530)	1	0.32	44	14.29
[540, 545)	3	0.97	47	15.26
[560, 565)	1	0.32	48	15.58
[575, 580)	2	0.65	50	16.23
[600, 605)	5	1.62	55	17.86
[620, 625)	3	0.97	58	18.83
[640, 645)	1	0.32	59	19.16
[660, 665)	4	1.30	63	20.45
[670, 675)	1	0.32	64	20.78
[680, 685)	1	0.32	65	21.10
[700, 705)	3	0.97	68	22.08
[720, 725)	12	3.90	80	25.97
[730, 735)	1	0.32	81	26.30
[750, 755)	4	1.30	85	27.60
[760, 765)	1	0.32	86	27.92
[765, 770)	3	0.97	89	28.90
[775, 780)	1	0.32	90	29.22
[780, 785)	2	0.65	92	29.87
[800, 805)	10	3.25	102	33.12
[810, 815)	1	0.32	103	33.44
[840, 845)	8	2.60	111	36.04
[850, 855)	1	0.32	112	36.36
[860, 865)	6	1.95	118	38.31
[865, 870)	1	0.32	119	38.64
[870, 875)	1	0.32	120	38.96
[880, 885)	1	0.32	121	39.29
[885, 890)	1	0.32	122	39.61
[900, 905)	13	4.22	135	43.83
[910, 915)	1	0.32	136	44.16
[920, 925)	2	0.65	138	44.81
[935, 940)	6	1.95	144	46.75
[945, 950)	1	0.32	145	47.08
[950, 955)	2	0.65	147	47.73
[955, 960)	1	0.32	148	48.05
[960, 965)	19	6.17	167	54.22
[965, 970)	1	0.32	168	54.55
[980, 985)	1	0.32	169	54.87
[1000, 1005)	11	3.57	180	58.44
[1040, 1045)	1	0.32	181	58.77

[1050, 1055)	2	0.65	183	59.42	
[1055, 1060)	2	0.65	185	60.06	
[1080, 1085)	8	2.60	193	62.66	
[1090, 1095)	2	0.65	195	63.31	
[1100, 1105)	3	0.97	198	64.29	
[1120, 1125)	2	0.65	200	64.94	
[1140, 1145)	2	0.65	202	65.58	
[1150, 1155)	6	1.95	208	67.53	
[1155, 1160)	1	0.32	209	67.86	
[1160, 1165)	1	0.32	210	68.18	
[1200, 1205)	18	5.84	228	74.03	
[1225, 1230)	3	0.97	231	75.00	
[1245, 1250)	1	0.32	232	75.32	
[1250, 1255)	1	0.32	233	75.65	
[1260, 1265)	2	0.65	235	76.30	
[1275, 1280)	1	0.32	236	76.62	
[1280, 1285)	2	0.65	238	77.27	
[1300, 1305)	1	0.32	239	77.60	
[1320, 1325)	1	0.32	240	77.92	
[1330, 1335)	1	0.32	241	78.25	
[1340, 1345)	2	0.65	243	78.90	
[1350, 1355)	2	0.65	245	79.55	
[1365, 1370)	1	0.32	246	79.87	
[1370, 1375)	1	0.32	247	80.19	
[1380, 1385)	1	0.32	248	80.52	
[1400, 1405)	4	1.30	252	81.82	
[1440, 1445)	8	2.60	260	84.42	
[1470, 1475)	5	1.62	265	86.04	
[1500, 1505)	3	0.97	268	87.01	
[1520, 1525)	1	0.32	269	87.34	
[1540, 1545)	1	0.32	270	87.66	
[1580, 1585)	1	0.32	271	87.99	
[1595, 1600)	1	0.32	272	88.31	
[1600, 1605)	4	1.30	276	89.61	
[1610, 1615)	1	0.32	277	89.94	
[1650, 1655)	1	0.32	278	90.26	
[1680, 1685)	5	1.62	283	91.88	
[1750, 1755)	2	0.65	285	92.53	
[1800, 1805)	1	0.32	286	92.86	
[1840, 1845)	1	0.32	287	93.18	
[1845, 1850)	1	0.32	288	93.51	
[1890, 1895)	1	0.32	289	93.83	
[1920, 1925)	6	1.95	295	95.78	
[1950, 1955)	1	0.32	296	96.10	
[1960, 1965)	1	0.32	297	96.43	
[1990, 1995)	1	0.32	298	96.75	
[2000, 2005)	1	0.32	299	97.08	
[2080, 2085)	3	0.97	302	98.05	
[2160, 2165)	1	0.32	303	98.38	
[2205, 2210)	1	0.32	304	98.70	
[2240, 2245)	1	0.32	305	99.03	
[2280, 2285)	1	0.32	306	99.35	
[2300, 2305)	1	0.32	307	99.68	
[2360, 2365)	1	0.32	308	100.00	
計	308	100.00	308	100.00	
平均	187.45	メディアン	194.5	標準偏差	62.42

表9 非正規労働者年間就業時間分布

時間数	人員	比率%	累積人員	累積%
[100, 105)	1	0.32	1	0.32
[120, 125)	1	0.32	2	0.65
[140, 145)	1	0.32	3	0.97
[170, 175)	1	0.32	4	1.30
[175, 180)	1	0.32	5	1.62
[190, 195)	1	0.32	6	1.95
[200, 205)	1	0.32	7	2.27
[240, 245)	2	0.65	9	2.92
[280, 285)	2	0.65	11	3.57
[300, 305)	2	0.65	13	4.22
[320, 325)	1	0.32	14	4.55
[335, 340)	1	0.32	15	4.87
[340, 345)	1	0.32	16	5.19
[380, 385)	2	0.65	18	5.84
[400, 405)	6	1.95	24	7.79
[420, 425)	2	0.65	26	8.44
[430, 435)	2	0.65	28	9.09
[440, 445)	1	0.32	29	9.42
[480, 485)	9	2.92	38	12.34
[490, 495)	1	0.32	39	12.66
[500, 505)	3	0.97	42	13.64
[520, 525)	1	0.32	43	13.96
[525, 530)	1	0.32	44	14.29
[540, 545)	3	0.97	47	15.26
[560, 565)	1	0.32	48	15.58
[575, 580)	2	0.65	50	16.23
[600, 605)	5	1.62	55	17.86
[620, 625)	3	0.97	58	18.83
[640, 645)	1	0.32	59	19.16
[660, 665)	4	1.30	63	20.45
[670, 675)	1	0.32	64	20.78
[680, 685)	1	0.32	65	21.10
[700, 705)	3	0.97	68	22.08
[720, 725)	12	3.90	80	25.97
[730, 735)	1	0.32	81	26.30
[750, 755)	4	1.30	85	27.60
[760, 765)	1	0.32	86	27.92
[765, 770)	3	0.97	89	28.90
[775, 780)	1	0.32	90	29.22
[780, 785)	2	0.65	92	29.87
[800, 805)	10	3.25	102	33.12
[810, 815)	1	0.32	103	33.44
[840, 845)	8	2.60	111	36.04
[850, 855)	1	0.32	112	36.36
[860, 865)	6	1.95	118	38.31
[865, 870)	1	0.32	119	38.64
[870, 875)	1	0.32	120	38.96
[880, 885)	1	0.32	121	39.29
[885, 890)	1	0.32	122	39.61
[900, 905)	13	4.22	135	43.83
[910, 915)	1	0.32	136	44.16
[920, 925)	2	0.65	138	44.81
[935, 940)	6	1.95	144	46.75
[945, 950)	1	0.32	145	47.08
[950, 955)	2	0.65	147	47.73
[955, 960)	1	0.32	148	48.05
[960, 965)	19	6.17	167	54.22
[965, 970)	1	0.32	168	54.55
[980, 985)	1	0.32	169	54.87
[1000, 1005)	11	3.57	180	58.44
[1040, 1045)	1	0.32	181	58.77

[1050, 1055)	2	0.65	183	59.42	
[1055, 1060)	2	0.65	185	60.06	
[1080, 1085)	8	2.60	193	62.66	
[1090, 1095)	2	0.65	195	63.31	
[1100, 1105)	3	0.97	198	64.29	
[1120, 1125)	2	0.65	200	64.94	
[1140, 1145)	2	0.65	202	65.58	
[1150, 1155)	6	1.95	208	67.53	
[1155, 1160)	1	0.32	209	67.86	
[1160, 1165)	1	0.32	210	68.18	
[1200, 1205)	18	5.84	228	74.03	
[1225, 1230)	3	0.97	231	75.00	
[1245, 1250)	1	0.32	232	75.32	
[1250, 1255)	1	0.32	233	75.65	
[1260, 1265)	2	0.65	235	76.30	
[1275, 1280)	1	0.32	236	76.62	
[1280, 1285)	2	0.65	238	77.27	
[1300, 1305)	1	0.32	239	77.60	
[1320, 1325)	1	0.32	240	77.92	
[1330, 1335)	1	0.32	241	78.25	
[1340, 1345)	2	0.65	243	78.90	
[1350, 1355)	2	0.65	245	79.55	
[1365, 1370)	1	0.32	246	79.87	
[1370, 1375)	1	0.32	247	80.19	
[1380, 1385)	1	0.32	248	80.52	
[1400, 1405)	4	1.30	252	81.82	
[1440, 1445)	8	2.60	260	84.42	
[1470, 1475)	5	1.62	265	86.04	
[1500, 1505)	3	0.97	268	87.01	
[1520, 1525)	1	0.32	269	87.34	
[1540, 1545)	1	0.32	270	87.66	
[1580, 1585)	1	0.32	271	87.99	
[1595, 1600)	1	0.32	272	88.31	
[1600, 1605)	4	1.30	276	89.61	
[1610, 1615)	1	0.32	277	89.94	
[1650, 1655)	1	0.32	278	90.26	
[1680, 1685)	5	1.62	283	91.88	
[1750, 1755)	2	0.65	285	92.53	
[1800, 1805)	1	0.32	286	92.86	
[1840, 1845)	1	0.32	287	93.18	
[1845, 1850)	1	0.32	288	93.51	
[1890, 1895)	1	0.32	289	93.83	
[1920, 1925)	6	1.95	295	95.78	
[1950, 1955)	1	0.32	296	96.10	
[1960, 1965)	1	0.32	297	96.43	
[1990, 1995)	1	0.32	298	96.75	
[2000, 2005)	1	0.32	299	97.08	
[2080, 2085)	3	0.97	302	98.05	
[2160, 2165)	1	0.32	303	98.38	
[2205, 2210)	1	0.32	304	98.70	
[2240, 2245)	1	0.32	305	99.03	
[2280, 2285)	1	0.32	306	99.35	
[2300, 2305)	1	0.32	307	99.68	
[2360, 2365)	1	0.32	308	100.00	
計	308	100.00	308	100.00	
平均	187.45	メディアン	194.5	標準偏差	62.42

表10 正規労働者年収分布

年収	人員	比率%	累計人員	累計%	
[25, 30)	1	0.81	1	0.81	
[90, 95)	1	0.81	2	1.63	
[95, 100)	1	0.81	3	2.44	
[100, 105)	1	0.81	4	3.25	
[125, 130)	1	0.81	5	4.07	
[150, 155)	2	1.63	7	5.69	
[155, 160)	1	0.81	8	6.50	
[160, 165)	1	0.81	9	7.32	
[180, 185)	4	3.25	13	10.57	
[190, 195)	1	0.81	14	11.38	
[200, 205)	6	4.88	20	16.26	
[220, 225)	1	0.81	21	17.07	
[230, 235)	1	0.81	22	17.89	
[240, 245)	3	2.44	25	20.33	
[245, 250)	1	0.81	26	21.14	
[250, 255)	3	2.44	29	23.58	
[255, 260)	1	0.81	30	24.39	
[260, 265)	2	1.63	32	26.02	
[270, 275)	1	0.81	33	26.83	
[280, 285)	2	1.63	35	28.46	
[285, 290)	1	0.81	36	29.27	
[290, 295)	1	0.81	37	30.08	
[300, 305)	8	6.50	45	36.59	
[310, 315)	1	0.81	46	37.40	
[320, 325)	3	2.44	49	39.84	
[330, 335)	2	1.63	51	41.46	
[340, 345)	1	0.81	52	42.28	
[345, 350)	2	1.63	54	43.90	
[350, 355)	7	5.69	61	49.59	
[360, 365)	1	0.81	62	50.41	
[380, 385)	1	0.81	63	51.22	
[390, 395)	1	0.81	64	52.03	
[395, 400)	1	0.81	65	52.85	
[400, 405)	11	8.94	76	61.79	
[415, 420)	1	0.81	77	62.60	
[420, 425)	1	0.81	78	63.41	
[440, 445)	1	0.81	79	64.23	
[450, 455)	5	4.07	84	68.29	
[460, 465)	1	0.81	85	69.11	
[500, 505)	8	6.50	93	75.61	
[530, 535)	1	0.81	94	76.42	
[540, 545)	1	0.81	95	77.24	
[550, 555)	2	1.63	97	78.86	
[560, 565)	2	1.63	99	80.49	
[570, 575)	1	0.81	100	81.30	
[580, 585)	2	1.63	102	82.93	
[600, 605)	1	0.81	103	83.74	
[650, 655)	3	2.44	106	86.18	
[660, 665)	1	0.81	107	86.99	
[690, 695)	1	0.81	108	87.80	
[700, 705)	2	1.63	110	89.43	
[780, 785)	1	0.81	111	90.24	
[790, 795)	2	1.63	113	91.87	
[800, 805)	4	3.25	117	95.12	
[875, 880)	1	0.81	118	95.93	
[945, 950)	1	0.81	119	96.75	
[1000, 1005)	3	2.44	122	99.19	
[1200, 1205)	1	0.81	123	100.00	
Total	123	100.00	123	100.00	
平均	415.94	メディアン	360	標準偏差	220.05

表11 正規雇用労働者時間当たり賃金分布

賃金	人員	比率%	累計人員	累計%
[150, 200)	1	0.81	1	0.81
[400, 450)	1	0.81	2	1.63
[450, 500)	1	0.81	3	2.44
[500, 550)	1	0.81	4	3.25
[600, 650)	1	0.81	5	4.07
[650, 700)	2	1.63	7	5.69
[700, 750)	1	0.81	8	6.50
[750, 800)	1	0.81	9	7.32
[800, 850)	1	0.81	10	8.13
[850, 900)	2	1.63	12	9.76
[900, 950)	2	1.63	14	11.38
[950, 1000)	6	4.88	20	16.26
[1000, 1050)	2	1.63	22	17.89
[1100, 1150)	1	0.81	23	18.70
[1150, 1200)	4	3.25	27	21.95
[1200, 1250)	3	2.44	30	24.39
[1250, 1300)	6	4.88	36	29.27
[1350, 1400)	6	4.88	42	34.15
[1400, 1450)	6	4.88	48	39.02
[1450, 1500)	3	2.44	51	41.46
[1500, 1550)	3	2.44	54	43.90
[1550, 1600)	3	2.44	57	46.34
[1600, 1650)	2	1.63	59	47.97
[1650, 1700)	4	3.25	63	51.22
[1700, 1750)	2	1.63	65	52.85
[1750, 1800)	1	0.81	66	53.66
[1800, 1850)	2	1.63	68	55.28
[1850, 1900)	3	2.44	71	57.72
[1900, 1950)	9	7.32	80	65.04
[2000, 2050)	1	0.81	81	65.85
[2100, 2150)	4	3.25	85	69.11
[2150, 2200)	1	0.81	86	69.92
[2200, 2250)	1	0.81	87	70.73
[2250, 2300)	2	1.63	89	72.36
[2400, 2450)	3	2.44	92	74.80
[2450, 2500)	1	0.81	93	75.61
[2500, 2550)	1	0.81	94	76.42
[2600, 2650)	3	2.44	97	78.86
[2700, 2750)	3	2.44	100	81.30
[2750, 2800)	1	0.81	101	82.11
[2850, 2900)	1	0.81	102	82.93
[3000, 3050)	1	0.81	103	83.74
[3150, 3200)	1	0.81	104	84.55
[3200, 3250)	1	0.81	105	85.37
[3300, 3350)	1	0.81	106	86.18
[3350, 3400)	2	1.63	108	87.80
[3450, 3500)	2	1.63	110	89.43
[3550, 3600)	1	0.81	111	90.24
[3600, 3650)	1	0.81	112	91.06
[3650, 3700)	1	0.81	113	91.87
[3800, 3850)	1	0.81	114	92.68
[4200, 4250)	1	0.81	115	93.50
[4350, 4400)	1	0.81	116	94.31
[4800, 4850)	2	1.63	118	95.93
[5100, 5150)	1	0.81	119	96.75
[5750, 5800)	1	0.81	120	97.56
[6150, 6200)	1	0.81	121	98.37
[10050, 10100)	1	0.81	122	99.19
[13200, 13250)	1	0.81	123	100.00